

## ジエトロ口が、香港・台湾農水産物・食品輸出商談ミツション開催



ジエトロ口は香港・台湾農水産物・食品輸出商談ミツションを結成し、2月26日から3月2日の日程で実施した。ミツションには日本から35社が参加した。27日には日航ホテル香港で香港・マカオからの食品関係会社56社がバイヤー106人を招待して行われた。食肉関係会社は飯島畜産㈱、いわて門崎丑牧場㈱、㈱ミートコンパニオンの3社が参加し、飯島畜産は食肉加工品の試食を、いわて門崎丑牧場は自社生産体制について広報活動を行った。ミートコンパニオン(和牛の展示)は、ブロック肉から現場でステーキ、すき焼き、しゃぶしゃぶの商品作りを行い来場者から注目を集めていた。

ミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役は、今回の参加目的について「3年前までは日本の『安全安心神話』により高額で高級部位がもてはやされていたが、長引く円高と漠然とした『安全安心神話』の崩壊によりマーケットが様変わりしてしまっており、日本以外の農水産物が目につくようになってきた。リサーチとニーズの把握を行わない限りこれ以上の販売数量や部位の偏重の解消が出来ないと判断し、ジエトロのマーケット分析実績とリサーチに期待してミツションに参加した。実際に売り場には、和牛のカタ系の商品が並んでおりニーズやリサーチの必要性を痛感した」と述べた。さらに、和牛の価格維持のため食文化も同時に紹介する必要性を強調し、日本で最も和牛の提供方法で優れている「和田金」のパンフレットも同時に紹介していた。

## 生活者の安全対応、獣医師が研修と和光センター等3施設視察

獣医療供給体制整備推進協議会の事業実施主体である管理獣医師の農場経営・飼養管理に関する研修が2月27日から3月1日まで行われた。また施設見学は和光食肉処理センター食肉検査所、㈱アグリス・ワン、熊谷家畜保健衛生所の3か所。あいさつに立った農場管理獣医師協会(FMV)の北村直人会長は、日本における食の安全性に関わる法制度の背景と獣医学及び獣医行政の役割について述べ消費者対策の重要性を説いた。講演では、FMVの北村直人会長、埼玉県食肉衛生センター白子分室の木村亜子課長、埼玉県農林部畜産安全課の関根貴司畜産衛生主幹、埼玉県熊谷家畜保健衛生所畜産支援・安全対策担当の田代卓也技師、(株)ミートコンパニオンの植村光一郎常務執行役等が行った。北村直人会長は「生産農場はコンプライアンスを重視し地球環境・アニマルウェルフェア・ギャップ・HACCPなどの考慮が求められる、生活者への対処が重要になる」と講演で強調。加工・流通で講演した植村光一郎常務は、日本のマーケット動向、東アジアのマーケット状況とヨーロッパの食の考え方、売り場を具体的に示したうえで「畜産物のヨーロッパ輸出の可能性も視野があるが、アニマルウェルフェア等の対策は十分とは言えない、食の優位性がフィールドからの情報発信を期待する」と述べた。